



風水害

風水害は、急激に状況が変化する場合があります。異変を感じたら、すぐに避難しましょう。

▶▶ 風水害に備える

! 天気予報や気象情報に注意

台風や豪雨はある程度の時期や規模などを予測できます。普段から気象情報に十分注意して、風や雨に対する対策を立てることが大切です。



! 避難場所・避難経路を確認する

防災ハンドブックに示されたあなたの近くの避難場所やその道順を確認しておきましょう。目印になるものを、おぼえておくと便利です。



! 家の内外を点検整備

トタンがめくれていたり、アンテナが不安定になっていると強風や台風時の被害の元になります。日頃の点検を忘れずに!



! 非常備蓄品・持ち出し品を準備する

いざという時のために、非常備蓄品や持ち出し品を用意しておきましょう。表紙の「避難時の服装と非常持ち出し品」を参考に、応用代用を考えながら、家族で準備しましょう。



▶▶ 風雨による危険度のチェックポイント

気象庁は、大雨や強風などによって災害が起こるおそれのあるときは「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときは「警報」を、さらに、重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときには「特別警報」を発表します。テレビやラジオ、インターネットなどから最新の情報を入手して、災害に備えましょう。

□ 1時間雨量による雨と被害の目安

やや強い雨 (10~20mm)



ザーザーと降る雨。地面いちめんに水たまりができる。長く続く場合は注意が必要です。

強い雨 (20~30mm)



どしゃ降りの雨。側溝や下水があふれ、小川のはん濫、崖崩れの心配もあります。

激しい雨 (30~50mm)



バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになります。規制も行われます。

非常に激しい雨 (50~80mm)



滝のように降り(ゴーゴーと降り続き)、土石流も発生しやすくなります。息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。

猛烈な雨 (80mm以上)



□ 風と被害の目安

※風速は10分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約1.5倍~3倍以上になることがあります。

やや強い風 (風速10~15m/s)



風に向かって歩きにくくなります。樹木や電線が揺れはじめます。

強い風 (風速15~20m/s)



風に向かって歩けず、転倒する人も出ます。看板やトンネル板がはがれはじめます。

非常に強い風 (風速20~25m/s)



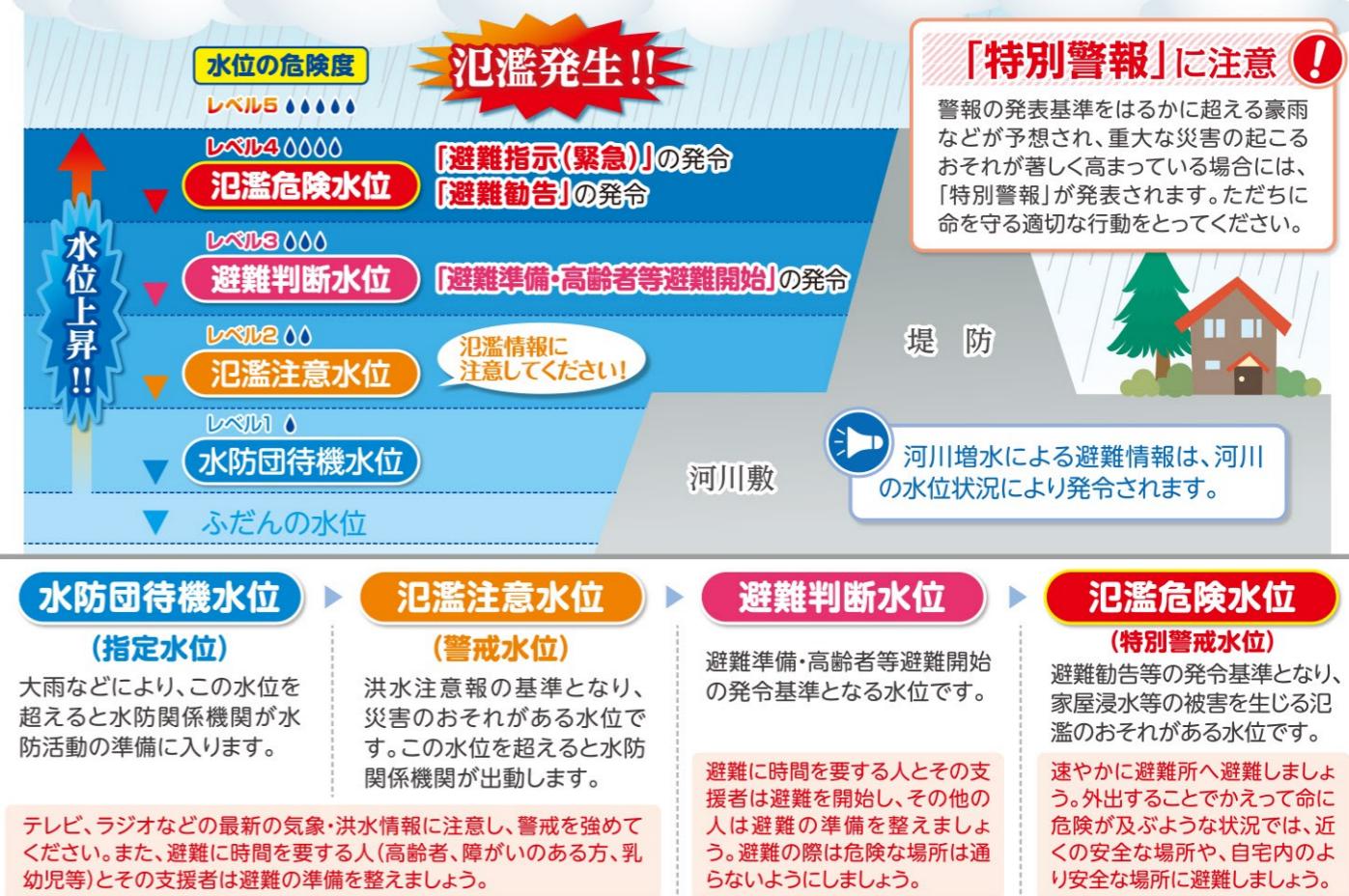
シャッターの破損やビニールハウスが倒壊するなどのほか、風で飛ばされた物で窓ガラスが割れるおそれもあります。

猛烈な風 (風速30m/s以上)



屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊なども発生するようになります。

▶▶ 河川の水位に注意!(気象庁より注意報・警報の発令)



▶▶ そのほかにもさまざまな災害に注意しましょう



竜巻 被害が増えています! 建物の倒壊、車の転倒、倒木などのおそれがあります。

竜巻注意情報が発表されたら…

- 空の様子に注意する
- 気象庁「竜巻発生確度ナウキャスト」を確認

<https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/?contentType=2>

以下のような場合は**頑丈な建物などでしばらく避難!**

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 空が暗くなる | <input checked="" type="checkbox"/> ヒヤッとした風がふき出す |
| <input checked="" type="checkbox"/> 大粒の雨が降り出す | <input checked="" type="checkbox"/> ひょうが降る |
| <input checked="" type="checkbox"/> 雷の音が聞こえる | |

▲雷が聞こえたらすぐ避難

- 雷鳴が遠くても、雷雲はすぐに近づいてきます。
- 屋外にいる場合は、安全な場所に避難しましょう。

▲建物の中や自動車へ避難

- 建物や屋根付きの乗り物(自動車など)へ避難しましょう。
- 雨宿りで木の下に入るには危険です。

▲木や電柱から4m以上離れる

- 落雷を受けた樹木などのそばに人がいると、その樹木などから人体へ雷が飛び移ることがあります。
- 近くに避難する場所が無い場合は、姿勢を低くしましょう。

▲運転中、暴風雪に遭ったら外に出ない

- 停車する場合はハザードランプを点灯し、むやみに車外に出ないようにしましょう。
- 排気口に雪が詰まると、排気ガスが逆流し、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。積雪が多い場合はエンジンをなるべく切りましょう。

▲除雪は一人で行わない

- 除雪作業は2人以上で行い、携帯電話を携行しましょう。
- 屋根の雪落しの際には、はしごの固定を忘れずに。
- 晴天の日は雪が緩むため注意しましょう。
- 除雪機の雪詰まりを直すときは、必ずエンジンを切ってから行いましょう。